EIICHI SHIBUSAWA

令和7年度東京都公文書館秋企画展

渋沢栄一と東京

令和7年 **10月20日**(月)～**12月16日**(火)

9時～17時（最終入場16時30分）

入場無料

休館日 日曜・祝日・第三水曜日（11月19日）

会　場 東京都公文書館企画展示室

- ▶ 常設展示室ミニ企画コーナー
- ▶ アーカイブウォール

東京都公文書館
TOKYO METROPOLITAN ARCHIVES

〒185-0024 東京都国分寺市泉町2-2-21
https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/01soumu-archives

「会議所伺・4巻の内2号〈庶務課〉」明治7年
東京開化三十六景　京ばしヨリ銀座の図
渋沢栄一・仏人ペレンゲレン 瓦斯街灯建設関係資料
渋沢栄一画像：「養育院60年史」
東京名所之内海運橋第一国立銀行之光景
渋沢栄一氏旧蔵松平定信関係：（木函）楽翁公写本徒然草、楽翁公銅像、楽翁公筆関羽像（背景）

開催趣旨

明治維新後、新政府は東京を帝都にふさわしい機能と景観をそなえた大都市として整備しようと様々な施策を行いました。その財源となったのが、「七分積金」です。

七分積金は、寛政3年（1791）、窮民救済を目的に松平定信が設置し、幕末に至るまで長年にわたり江戸町人が積み立ててきた財源でしたが、新政府は、インフラ整備など窮民救済以外の「公益」に資する事業にも利用していきます。

この七分積金の運用に深く関わったのが、「日本資本主義の父」「実業界の父」と呼ばれ、新一万円札の肖像にもなった渋沢栄一です。

本企画展では、当館が所蔵する資料のうち、渋沢が関与した積金を運用していた東京会議所関係資料のほか、積金の窮民救済機能を継承して設置された養育院の歴史等を紐解き、"公益事業"に取り組む渋沢栄一のもうひとつのすがたを描きます。

構成

第1章　東京会議所と渋沢栄一　～「官」と「民」をわける

第2章　養育院と渋沢栄一　～「官」と「民」のあいだで

第3章　松平定信関係史料と渋沢栄一

常設展示室ミニ企画コーナー、アーカイブウォール

関連講演会

講　師

小美濃彰（東京都公文書館職員）

「養育院にみる渋沢栄一と松平定信」

池田真歩（東京都立大学 人文社会学部 准教授）

「頓挫した企てが語る東京の渋沢栄一」

参加費無料

開催日

令和7年11月28日（金）13:30～16:30（受付開始 13:00）

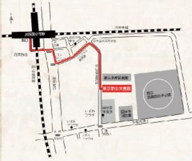
会　場

東京都公文書館研修室

募集人数

60名

詳細は、東京都公文書館ホームページ、SNSにてお知らせします。



交通機関

・ＪＲ中央線・武蔵野線「西国分寺」駅　徒歩約８分
・京王バス「いずみプラザ前」　徒歩約４分
・ぶんバス（万葉・けやきルート、北町ルート、日吉町ルート）
「国分寺市役所」下車　徒歩約１分

来館についてのお願い

ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。
車・バイクで来られる方は近隣の駐車場をご利用ください。
なお、身体障害者用の駐車スペースをご用意しています。
自転車は、駐輪スペースをご利用ください。

東京都公文書館
TOKYO METROPOLITAN ARCHIVES
〒185-0024 東京都国分寺市泉町 2-2-21
https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/01soumu-archives

渋沢栄一像撮影場所：常盤橋公園